

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-161		16-119	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）			
<p>Patterns of 'at-home' alcohol-related injury presentations to emergency departments.</p> <p>救急分野のデータに基づく家庭内で起こる飲酒関連負傷の要因に関する研究</p>			
執筆者			
Bunker N, Woods C, Conway J, Barker R, Usher K.			
掲載誌			
J Clin Nurs. 2017 Jan;26(1-2):157-169. doi: 10.1111/jocn.13472.			
キーワード			PMID
飲酒、救急、家庭内負傷、観察研究			27381762
要 旨			
目的:			
<p>近年、メディアなどの関心が店舗など公の場所での飲酒に関連した負傷に向けられているにもかかわらず、家庭など、それ以外での場所での負傷に関しては議論が少ない。この研究の目的は、家庭内での飲酒に関連する負傷の程度を評価することである。</p>			
方法:			
<p>本研究は、後ろ向き観察研究である。オーストラリアの Queensland Injury Surveillance Unit における救急部門の調査データのうち、2003年から2012年の期間の飲酒に関連した救急患者が調査された（n = 12,296人）。飲酒の関与について記述解析を行い、分散分析によって群間比較を行った。更に、背景要因と負傷場所の関連について評価を行った。有意水準は5%と定めた。</p>			
結果:			
<p>飲酒に関連が確実にあると判断されたすべての負傷のうち、41.07%は外、36.14%が家庭内、13.00%が道、9.78%が店舗などで起きていた。男性（n = 2635; 59%）の割合は女性（n = 1807; 41%）より高かった。家庭内で起きた負傷のうち、配偶者か交際者によるものが59.5%であった。</p>			
結論:			
<p>本研究は家庭内で起こる飲酒による負傷を調査した初めての研究である。家庭内での飲酒関連負傷は、広く注意される店舗などでの負傷より件数が多かった。今後、より広い設定による評価が必要と考えられる。</p>			